環境パートナーシップちば

だより

— つながれ ひろがれ —

（領価200円）

編　集　環境パートナーシップちば
代　表　横　山　清　美
事務局　千葉市中央区中央港1-11-1
（財）千葉県環境財団 環境学習推進室内
電　話　043-246-2180
FAX　043-246-6969

平成13年度総会開催

―副代表の交代、エコサロンの新設など決まる―

5月12日（土）平成13年度環境パートナーシップちばの総会が、鴨川市の大山千枚田へのエコツアーを兼ねて開かれた。千葉からバスで2時間、新緑の中の総会予定会場の鴨川市青少年センターに到着したが、手違いでセンターが閉まっており、急遽バスの中での総会となった。

総会は会員27名と千葉県環境財団から3名の参加をえて、永島輝代氏の司会で横山清美氏、斉藤財団理事の挨拶後、深尾秀次氏を議長に選出、平成12年度事業報告、会計報告、監査報告が行われた。次いで13年度事業計画、予算案について説明され、厳しい財政状況の中、会員の相互交流を更に活発化し県内環境ネットワークの要となるよう、エコサロンの新設、環境シンポジウムへの事務局参加などが承認された。最後の役員選出は、永島輝代氏より環パちば広報紙において新年度の役員の立候補をお願いしたが立候補者がなく旧役員一同であちこちお願いして候補者を決めたので承認をお願いしたいとの提案があり、代表には横山清美氏が留任、以下の人事案が全員の拍手で承認された（事業計画、新体制は3ページ）。前年度副代表の川原啓佑氏はストップ地球温暖化千葉推進会議（5ページ）代表に専任され、環パちばではアドバイザーとして助言指導をいただくことになった。

21世紀最初の千葉県知事、堂本暁子氏は、全ての施策を環境の視点から見直すことを表明され、NGOへの期待も高まっている。環パちばは、設立5年目を迎えて組織も内容も更に充実させることを確認して総会を終了した。

バスのなかで行われた総会

「2001年の活動は」

代表　横山清美

風薫る5月、会員の皆様には野外活動に絶好な時期でもあり、また各自治体の環境月間催事に主体的に参加される準備にと活発な活動時期であると拝察されます。「環パちば」にても、大山千枚田のエコツアーと共に開催した2001年度定期総会を終え、早速新年度の活動が動き出しました。

2000年度実行委員が準備してまいりました「環境シンポジウム2001千葉会議」については、第1回実行委員会が5月16日に開かれました。従来からも多くの実行委員が参加し中核を担っていた「環パちば」ですが、今年度から千葉県環境財団と協働で事務局の運営にも係ることとなりました。また6月の環境月間を迎えて、9・10日と幕張メッセにて催される「千

葉県環境フエア」での市民団体発表、24 日には市原の県環境研究センターにて催される「エコパーク」市民団体活動発表にも参加が決まり、その準備に入っています。

一方いままでの「学習会」活動に加え、もっとざっくばらんに専門家の方と時の話題をテーマに話をしたいとの要望に答え、「エコサロン」を偶数月に開催することといたしました。6 月 15 日には第 1 回「エコサロン」を企画、「かながわ県民活動サポートセンター」で 3 年間コーディネーターとして活動なさってきた佐藤一子さんをお迎えして、市民活動へのサポートはどんなものが望まれているのか話しあいたいと思っています。いま市町村においても企業においても市民活動への支援は課題になっています。企業や行政の方々も誘ってご参加ください。

このように皆様からの要望に応じられる体制になって来ましたのは、4 年間副代表として活躍された永島輝代さん・川原啓佑さん・深尾秀次さんのお力が大であったと思われます。お三人には、感謝と共に更なる支援を期待しております。今年度の副代表、佐久間隆義さん・平松南さん・大西優子さんは、それぞれの持ち味の発揮を期待しております。今年の「環パちば」もご期待ください。そして、今年度も皆様のご協力をお願いいたします。

「環境パートナーシップちばの果たす役割」

副 代 表　大 西 優 子

この度、副代表という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いをしています。21 世紀は、環境の世紀といわれます。それだけ、地球環境が悪化したということでもあり、また、環境の再生・創造が急がれる時代でもあるということだと思います。

その今、環境パートナーシップちばの果たす役割は、ネットワークを密に繋げる情報発信と、誰でも気軽に参加できる討論の場を用意すること、そして、集めた皆様の活動情報をバックに県への政策提言や、これからの行政に欠くことのできない市民参加として事業への協力や委員会等へ参加し、多くの方々のご意見を反映することではないかと考えます。

私は広報担当として、広く皆様のご意見を戴き、また、知り得た各種の情報をお伝えすることをしていきたいと思います。皆様のご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「環境の世紀は待ったなしの世紀です」

副 代 表　佐 久 間 隆 義

このたび図らずも総務関係の副代表を仰せつかることになりました。これまで環境シンポジュームの実行委員を３回続けてまいりましたが、“ 環境パートナーシップちば ” の活動についてはまだ十分な経験がございません。頑張ってやりますので皆様のご協力をよろしくお願いします。

若い頃から市民と行政の橋渡しをするような仕事をしておりましたので、様々な法律や対策が尽くされているにも関わらず、改善の歩みの遅い環境問題に取り組まない限り本当の意味での前進はありえないと思います。“ 環境パートナーシップちば ” はその名の通り千葉県環境財団の協力団体として大いに力を発揮できるポテンシャルを持った団体であると思います。

環境の２１世紀がますます多くの市民団体や企業までを巻き込んだ環境パートナーシップの世紀となりますよう皆様と力を合わせて進みたいと思います。宜しくお願い申し上げます。

平成 13 年度事業計画

年月日	事業名	内　容
5 月 12 日	総会／エコツアー	総会と千枚田周辺の見学など
5 月	「だより」発行	VOL.19
6 月	エコサロン	話題になっている環境問題を意見交換する集い
7 月	学習会	ごみ問題
7 月	「だより」発行	VOL.20
8 月	エコサロン	話題になっている環境問題を意見交換する集い
9 月	「だより」発行	VOL.21
10 月	エコサロン	話題になっている環境問題を意見交換する集い
10 月 21 日	環境シンポジウム	環境に根ざしたテーマで６分科会に参画
11 月 3 日、4 日	エコメッセ 2001	各種環境団体の活動ＰＲとフェスティバル
11 月	学習会	地球温暖化問題
11 月	「だより」発行	VOL.22
12 月	エコサロン	話題になっている環境問題を意見交換する集い
1 月	「だより」発行	VOL.23
2 月	エコサロン	話題になっている環境問題を意見交換する集い
3 月	「だより」発行	VOL.24
4 月	エコサロン	話題になっている環境問題を意見交換する集い

新役員紹介

平成 13 年度運営委員メンバー

代表	横山清美
副代表	佐久間隆義（総務担当）
	平松　南　（事業担当）
	大西優子　（広報担当）
会計	服部丈夫
	橋本公江
書記	本澤美代子
	田中恵美
総務部	小野　朗(部長)
	北村　元良(副部長)
事業部	田口みちお(部長)
	松尾昌泰（副部長）
広報部	佐藤素子(部長)
	広田ゆきえ(副部長)
監査	深尾秀次
	永島輝代
アドバイザー	川原啓佑
	鈴木優子

鴨川青少年研修センター

総会の会場のはずだった、鴨川青少年研修センターは、棚田オーナーになって泊りがけで作業する際には宿泊もできるという便利な場所です。しかも、一人 600 円という格安料金。高台にあるせいか、緑にかこまれたいい所でした。

エコツアー　大山千枚田

わずか 30 坪足らずの小さな水田が幾重にも並び、優雅で美しい光景が広がる大山千枚田。快晴に恵まれ、参加者の足取りも軽く、遠足気分満喫のエコツアーに、参加者の皆さんも満足されたようでした。バスの中でアンケートに協力いただきましたので、声を抜粋してお届けします。

●●●

シンポジウムから生まれた団体を紹介します。

地球温暖化にストップをかけよう

ストップ地球温暖化千葉推進会議　設立

川 原 啓 佑

３月 27 日、船橋女性センターで上掲の「推進会議」の設立総会が開かれ、結成となりました。

温暖化防止は、あの歴史的な京都会議以来誰もご存知の人類の運命を左右する最重要テーマですが、総論賛成！各論？の典型的な難問です。一昨年来、千葉県でも温暖化防止計画策定委員会（委員には環パ横山清美代表も参画）が開かれ、その計画策定に基づいてこの２月同千葉県センターが県の推進機関として設立されました。これには市民委員が参画するのと同時に、市民ＮＰＯの立場でこの難問推進に協力しつつ取り組もうとするものです。また、昨秋の環境シンポジウム第１分科会「地球温暖化を考える」の終会時に「継続して取り組もう」との決議がなされ、その後一般の方にも広く呼びかけて参集された経緯があり、すでに 30 名以上の会員数となりつつあります。

当日は、県環境生活課浅岡主幹、環パちば横山代表の祝辞や県センター中村室長（環境財団）の御来席を得て、熱心な設立会議が行われ、次の活動方向と役員などを決定いたしました。

（主活動）

１．県センターと連携した市民領域での地球温暖化防止活動

２．地球温暖化防止についての自己研修、活動方法、資材料調査研究

３．市民、市民団体、企業、行政などに対する提言提案

４．学習会、講師派遣、出前講座、材料提供、実践活動

なお、この会は全国で８番目、関東で初めて誕生した温暖化防止の「県センター」に市民サイドが呼応して結成した初めて（？）のＮＰＯであり、また、かねて環パちばとして「手をつなぐだけでなく事業推進を目指そう」としてきた中での有力事業です。名前は別組織のようですが事務所も環パちば事業部気付となりましたし、主要メンバーのかなりが二重籍です。とにかく難問対応に環パちばの総力をあげての御支援を期待しています。

ごみゼロネットちば 21（通称 GONET）誕生

井 上 健 治

昨年の環境シンポジウム千葉会議をきっかけにし、今年１月に「ごみゼロネットちば 21」（通称 GONET）が誕生しました。

以前から、必ずボランティア団体のテーマとして取り上げられる「ごみ」の問題。今までにたくさんの団体や個人が取り組んで活動されてきましたが、志に反しその量は増え続け、県民一人当たり１日約１ｋｇ。年間 219 万ｔ、これは幕張メッセスタジアムで８杯分になります（H.10 年度）。経費、つまり使われる税金も県全体で 743 億円（施設整備費を除く）、５年前に比べて約 1.1 倍増、収集人口一人当たり年間約 13,000 円です。

クリーン作戦として、「ごみの日」（H11.5.30）には 79 市町村で 75 万８千人が参加し、収集総量 1,431ｔ、空き缶収集量 328ｔ、「千葉県リサイクルの日」（H11.10.24）には 80 市町村で 178 万８千人が参加し、17,235ｔ（うち古紙 11,314ｔ）が回収されました。毎年毎年、繰り返される啓発事業と資源ゴミの回収運動、はたしてこれで「ごみ」は減るのでしょうか？

ごみ減量というと、すぐにリサイクルやリユースが実施されますが、私は４Ｒが基本と考えます。Refuse（やめる）Reduce（へらす）Reuse（再使用）Recycle（再資源化）です。リサイクルやリユースも大切なことですが、徹底した発生抑制や減量化を実現・実施しないと本当に「ごみ」はなくならないと思いませんか。ごみゼロは簡単です。自分、一人一人がゴミを「出さない」事だけです。でも現実は１人の力ではムリです。たくさんの人の力や想いが必要です。

「GONET」で、そんな一人一人の想いを…、行動を…、情報をネットワークし、よりスムーズに、より活発な活動を展開していきましょう。機関誌、ホームページでの情報交換、地域のごみゼロ活動のお手伝い、行政との連携などを予定しています。

ごみ問題に関心のある市民、行政や企業の方の参加をお願いします。

連絡先：TEL：090-9156-6757
FAX：043-228-6226（井上）
E-mail：kanappi@white.plala.or.jp
ＨＰ：http://page.freett.com/gonet/index.htm

訪問シリーズ

『まくはりベイタウンニュース・編集局』

～ふるさとは遠きにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの～

これは、室生犀星の作品（叙情小曲集）の一節である。犀星は“ふるさと”を作品の中で、たとえ乞食となっても帰るべきところではないと述べているが、それは人並み以上の愛着があったからこそあのような表現をしたのであって、むしろ帰りたいと言う切望が容易にして推察される。

そして現代。その“ふるさと”の心を“新しいまちづくり”のなかに息づかせようと活動しているグループを、今回はご紹介したい。

京葉線海浜幕張駅下車、ベイタウン循環バスに乗って訪れた“幕張ベイタウン”は、突然ヨーロッパの街並みに迷い込んだかのような錯覚を覚える自然と人とが実に見事に調和した近代的な街であった。

“プロムナード入り口”でバスを降り、駐車禁止の看板のない道路を渡って、歩道にデッキを出した喫茶店“ローズ・ベイハーツ”で、松村守康氏にお話を伺った。

松村氏は、むろんこの街の住人であり、今回ご紹介するグループ『幕張ベイタウンニュース編集局』の構成員 6 人のなかのお一人である。

幕張ベイタウンは、誕生して 5 年の新しい街で、『幕張ベイタウンニュース』は、創刊当時はこの街の自治会の広報誌であったが、もっと柔軟な発想で住民とのコミュニケーションを計り、同時に、まちづくりに自由な立場で貢献したいと独立したものである。

年 12 回発送される広報紙からは、ハード面では、企業庁の「幕張新都心住宅地（ベイタウン）事業の変更にかかわる説明会」の取材やそれに対する住民の意見が。また、住民と行政が意見を出し合ってコミュニティコアを作る研究会の活動や、シリーズ物の“番街紹介”を含めて、まちづくりのすべてが住民参加のもとに進められている様子と共に、住民へのさりげない啓発意識なども伺われ興味深い。ソフト面では、個性的な住民を毎号紹介する「ベイタウン who’who」やコンサート、芋掘りのイベント紹介、そして毎回人気の「編集後記」等の文面から、「魅力あるまちづくりをしよう！」という熱いエネルギーが伝わってくる。

広報紙は、マンション数 21 棟の住民 10.000 人に対し 4.200 部の配布で対応しているが、印刷等の経費は近隣企業の暖かい広告支援によって賄われ、加えて編集員すべてが実費も返上して全くの手弁当で当たっている。この街の住人であり、『環パちば』の産みの親でもある千葉県立中央博物館の小川かほる氏ご夫妻も、配布の折には無料奉仕で参加しているという。

ふとした縁で集まった住人が、ペンの力とフットワークを活かして、新たなる“まちづくり”にまい進していく姿に、心から拍手を送りたい。

（平成 13 年 2 月取材・山口）

これからの環パちばに期待すること

- ✧ 横山代表を中心に、新スタッフの大いなる強力で「環パちば」のパワーアップを図ろう！（深尾さん）
- ✧ 環パちばも 21 世紀を迎えて本当に努力しなければなりません。国際環境部、市町村環境部を増設して
- ✧ 地域社会の福祉に貢献してゆきたい。（林さん）
- ✧ 加盟団体を増やして、質量共に充実させたい。（田口さん）
- ✧ 期待するより「会員の方々」に期待されるよう更に努力をしなければと考えております。（小野さん）
- ✧ 期待することはあるが、あまり出来ないのではないかと思う。（人もいないし）（一言居事さん）
- ✧ ①若い人、女性の参加増を各運営委員に期待。
- ✧ ②行政や企業に適切な提言を、より積極的に。（川原さん）
- ✧ 人々の心を変えてゆくこと！精神的→物理的に変わっていくキッカケをつくることだと思う。（匿名さん）

談話室

★　ある環境団体の広報誌で塩素系ラップの返品運動を行い“ダイオキシンを発生させない適正な処理方法が可能になるまで確実な保管をする”よう要望して製造元に渡したところ、一方的に焼却処分されてしまったと非難する記事を目にしました。企業側にも説明を尽くさなかった面があるのかも知れません。でも、適正な方法を取ればダイオキシンを発生させることなく安全に焼却する技術は既に確立されています。どんな方法で処分されたかはその記事からは覗えませんでしたが、焼却すること自体が悪いという対立の構図から一歩進んで、実現可能な対処法を見出すための対話を双方が深めてゆかねばならないことを強く感じました。　（匿名子）

★　ベランダでイチゴを育てている。今年もそろそろ色づいてきたなぁと思う頃から、頻繁にピーヨピーヨとけたたましい声をあげながらやって来る奴らと私の戦いが始まる。まだ酸味の強いうちから食べるので、当然私は味わえない。子供の頃は餌台を作って鳥を呼び寄せていた私が、今は追い払うべく見張っている。だが最近、目の前で建設工事が始まってから状況は一転した。やはり、ヒヨドリも工事には弱いのか。憎らしかったヒヨドリが、今はちょっと恋しい。　（きんぎょ）

★　市のごみ焼却炉は、最低温度 750 度でやっとダイオキシンの発生を防ぐことができるという（どの市町村も同じと思うが）。普通のゴミを燃やしただけでは、せいぜい 350 度へ到達するかどうか。今までは、ペットボトルやトレーを一緒に燃やして何とかその温度に達していたが、そのペットボトルなどがリサイクルと言う目的で一般ゴミと一緒に燃やすことはなくなった。でも、設備の変更はなされていない。これは重油を燃やしてダイオキシンの発生を防いでいるとしか考えられない。リサイクルされないままに山積みにされているペットボトル。移行段階で混迷とは思うが、柔軟な対応は考えられないのだろうか。（Y/Y）

蛍の光の中での交流

石井　晧

私がクアラセランゴール自然公園を音の環境教育のテキスト作りの国際会合の場所に選んだ理由をみんなはわかってくれたのだろうか、手こぎのボートは蛍，蛍，ホタルの光の中をゆっくりと進んでいる。

ギーッ，ギーッとならしながら、船頭は２本の櫓をあやつり、川の水を後ろに追いやっている。幸いにも新月で，船着場の明かりが遠のくにしたがい、蛍の光が鮮やかになってくる。蛍が好む木々が川沿いにたくさん生えており、幾万と言う蛍が集まっているのだ。

昼間の自然公園は数多くの鳥の鳴き声，サルの声など自然の音に包まれていた。公園を広く取り巻く熱帯雨林やマングローブ林のかなたから漁をするモーターボートの音がかすかに聞こえている。

自然の音の構成から生態系の構造（食物連鎖など）を把握する手法を学ぶ１つの場として、そして「マレーシア時間」でゆっくりと議論する為に私達はここに来たのである。

タイ，シンガポール，インドネシア，マレーシアそして日本の友人達が３日間かけて音の環境教育の国際会合とセミナーをクアラセランゴール自然公園ビジターセンターとクアラルンプール郊外のマレーシア森林研究所講堂で行った。今年は２回目で、今までの体験交流から，各国の友人は私たちとほぼ同じアクティビティをそれぞれの国で展開し、私たちが作成した音の環境教育のテキストに基づいた活動を試行している。

マレーシアの友人達が披露してくれたアイスブレーキングは日本的なテーマをつければ「真似られるかな？やってみよう」だろう。ファシリテータが２回手を叩けばみなも同じに叩く、３回ならば３回叩く，次は３回手を叩き振りをつける，そしてこれを真似て見ると言うものだったが，これはたぶんどこでも行われているアイスブレーキングだろう。

目隠しをして，鳥や動物の鳴き声を出し，それを聞き分けながら仲間探しを行うと言うものもあった。音の環境教育ということで選んでくれたのである。目隠しはいろいろの色の生地と黒の生地で２重に作成してあった。日ごろ使っているようであり、ファシリテータも自信を持って参加者（マレーシアの教員，ここでも女性が多い）をリードしている。

アセアン音環境協会は千葉の先生，中央博物館、環境研究センターの方々の協力と地球環境基金の助成を得て活動している。６月５日には、千葉市文化会館で開催される千葉市と基金の共催事業でも報告予定である。

お知らせコーナ

第１回「エコサロン」

今年度から始まった「環パちば」の企画です。お茶を飲みながら、参加者の皆さんとざっくばらんに話してみましょう。

日時：６月 15 日(金) 6 時 30 分～８時 30 分
会場：船橋市女性センター　　参加費：500 円
講師：佐藤一子（かずこ）氏
テーマ：「環境 NPO に対する支援とは」

かながわ県民活動サポートセンターで３年アドバイザーとして活動されてきた佐藤一子氏とともに、市民の環境活動にはどんなサポートが必要か探ってみたいと思います。

環境シンポジウム事務局のお手伝い募集

10 月 21 日に環境シンポジウムが開かれます。今年は環パちばが財団と共に事務局に入ります。実行委員以外の方で事務局の仕事を手伝っていただけるかたは、是非お申し出下さい。

「センスオブワンダー」上映会

「沈黙の春」の著者、レイチェル・カーソンが自然の神秘さ、生命の輝きを伝えるエッセイ、「センスオブワンダ」ーが映画になりました。

多くの会員、環境団体による自主上映会が企画されています。ぜひご覧ください。

日程	会　場	問合せ先（TEL）
7月13日（金）	さわやかちば県民プラザ	0471-34-0463
7月15日（日）	千葉市生涯学習センター	0471-34-0463
7月18日（水）	アミュゼ柏	0471-34-0463
7月21日（土）	成田中央公民館	0476-28-5025
7月21日（土）	かずさアカデミアホール	0471-34-0463
7月22日（日）	浦安市文化会館	047-355-6195
7月28日（土）	四街道市文化センター	043-432-7790
10月8日（月）	千葉市文化センターホー	047-420-2600

エコパーク 2001

環パちばの活動を紹介するパネル展示も行っています。お出かけの際は、ぜひご覧ください。

日時：６月 24 日(日)
会場：千葉県環境研究センター（市原市）
内容：クイズラリー、サイクル製品展示など
問合せ：千葉県環境研究センター
TEL　0436-24-5309

「地球温暖化防止キャンペーン 2001」シンポジウム

日時：7 月 12 日（木）14：00～
会場：ぱ･る･るプラザ千葉　ぱ･る･るホール３階
参加費無料（事前の申込が必要）
問合せ：千葉県地球温暖化防止活動推進センター（環境財団内）TEL：043-246-2180

全国トンボ市民サミット

トンボは水辺環境のシンボル、全国のトンボ仲間と交流しませんか。

日時：８月４日（土）、５日（日）
場所：市川市文化会館ほか
問合せ：TEL＆FAX　047-322-2733

国立環境研究所公開シンポジウム

日時：7 月 19 日（木）10:00～17:00
場所：東京国際フォーラム　ホール C
参加費無料　（事前の申込が必要）
「国立環境研究所の到達点と今後の目標」ほか
問合せ：社団法人　国際環境研究協会
TEL：03-3432-1844
ＨＰ：http://www.nies.go.jp/sympo/index.html

千葉県の保護上貴重な野生生物

千葉県レッドデータブックー普及版ー
が発刊になりました。1 冊　1,000 円（送料別）
連絡先（財）千葉県環境財団　総務課
電話：043-246-2078、FAX：043-246-6969

＜環境パートナーシップちば＞

入会申込書（該当するところを○で囲んでください）
会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて入会します

氏 名		入会年月	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
申込み先	TEL:043-246-2180　FAX:043-246-6969		
年会費	個人 1,000 円　団体 2,000 円　賛助会員 5,000 円		
会費納入先	郵便振替口座　00160-9-401872　環境パートナーシップちば		

編集後記

はじめまして、今回から広報を担当させていただきます広田と申します。

初めての「だより編集」、困難の連続でした。限られた時間とつたない技術。しかも今回からは少しでもコストを下げようと、レイアウトを自分たちで行うことになったのです。広報部長の佐藤さんの大きな努力のたまものです。さらに、強力な助っ人渡辺君は現役の大学生。「協力するよ～」という総務のお二人にはどれだけはげまされたことでしょう。本当にありがとうございました。そして、これから１年間よろしくお願い申し上げます。

（広田）

古紙 100%再生紙使用